

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システム (2016年改訂版) | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	日本空調サービス株式会社 技術研修センター新築工事	階数	地上5F
建設地	愛知県名古屋市南区港東通1丁目2番、2番1、2番4、2番5、2番6、2番12	構造	S造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	237 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,080 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年9月 予定	評価の実施日	2023年8月22日
敷地面積	1,799 m ²	作成者	
建築面積	1,078 m ²	確認日	2023年8月22日
延床面積	4,178 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆

①参照値 100% (138 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 78% (46 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外のオンサイト手法 78%

④上記+オフサイト手法 78%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5.0

Q1 室内環境: 3.0

Q3 室外環境 (敷地内): 2.4

LR1 エネルギー: 3.9

LR2 資源・マテリアル: 3.3

LR3 敷地外環境: 3.1

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境 (スコア: 3.0)

音環境	3.2
温熱環境	3.0
光・視環境	3.0
空気環境	3.2

Q2 サービス性能 (スコア: 3.4)

機能性	3.1
耐用性	3.0
対応性	4.2

Q3 室外環境 (敷地内) (スコア: 2.4)

生物環境	2.0
まちなみ	3.0
地域性	2.0

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー (スコア: 3.9)

建物外皮の	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	4.1
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル (スコア: 3.3)

水資源	3.4
非再生材料の	3.4
汚染物質	3.3

LR3 敷地外環境 (スコア: 3.1)

地球温暖化	3.8
地域環境	2.3
周辺環境	3.2

3 設計上の配慮事項

総合	その他
居住者が快適に過ごせるよう室内環境に配慮するとともに、建物維持にも配慮することで管理しやすい計画とした。また省エネルギー機器を採用するなど地球環境にも配慮した建物設計を行っている。	特に無し
Q1 室内環境 室内環境に配慮した設計を行なった	Q2 サービス性能 余裕のある天井高・階高を確保し、更新必要間隔の長い建材を使用するなどの配慮をしている
Q3 室外環境 (敷地内) 敷地内に緑化を設けた	
LR1 エネルギー 省エネルギーに配慮した建物計画とした (BPI _m =0.74/BEI _m =0.69)	LR2 資源・マテリアル リサイクル材を採用している
	LR3 敷地外環境 LCCO ₂ 排出率を抑制している

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

日本空調サービス株式会社 技術研修センター新築工事

- 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル
- 評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.7
LR1	エネルギー	4.0	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.8	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				3.3
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 3.7
	
2. 自然共生	評価点 = 1.9
	
3. 循環型社会	評価点 = 3.3
	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。